

平成25年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
蚕糸・地域特産部門

飼料稲・飼料米を活用した大規模かつ高品質な葉たばこ栽培の実現

○氏名又は名称 太江田 浩次・太江田 文子

○所在地 熊本県八代市

○出品財産物（葉たばこ）

○受賞理由

・地域の概要

八代市は、熊本市の南約40kmに位置し、全面積の70%が山間地、約30%が平野部で形成されている。平野部は、日本三急流の一つである球磨川や氷川の両水系で形成された豊かな土地が広がり、米、い草やトマトなど数多くの農産物が生産されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

太江田氏は、昭和42年に就農し、当初はい草、水稻、みかんの複合経営を行っていたが、平成11年から地域のい草農家とともに葉たばこ栽培に転換した。

平成24年度の経営耕地面積は25.0ha（自作地4.3ha、借地20.7ha）、葉たばこ耕地面積は4.6haとなっている。全国の葉たばこ平均経営面積（約2.2ha）と比較すると約2倍以上の規模である。

・受賞者の特色

(1) 大型経営の実現のための省力化

太江田氏は、大規模経営を実現するために、複数の葉たばこ専用作業機の導入、受委託乾燥施設の利用による乾燥作業の委託及び耕作放棄地を利用したほ地集団化等に取り組み、葉たばこ栽培の省力化を図っている。

(2) 堆肥による土づくりと排水対策の徹底による高品質生産

太江田氏が新しい農地を借り受けた場合、まず飼料稲を作付けし、ほ地に必要な肥料の量を見極めた上で、堆肥を投入する等して、葉たばこ栽培に適した土づくりを行っている。また、飼料稲収穫後は、葉たばこ栽培に備えて、弾丸暗渠を設置する等して排水に努め、高品質な葉たばこ栽培を行っている。

(3) 耕畜連携

葉たばこの後作として、飼料稲の栽培を行っている。これにより、水田を湛水することで土壤病原菌密度を低下させ、連作障害を回避することができる。また、栽培した飼料稲は県内の牧場へ馬の飼料向けに販売しており、その牧場から得られる堆肥を使用することで、県内における耕畜連携を図っている。

・普及性と今後の発展方向

葉たばこ栽培においては、JTからは安全性が高く高品質な葉たばこを長期的かつ安定的に供給できる大規模経営が求められている。太江田氏は、家族労働力を中心にしつつも、雇用労働力の集中的な投入及びほ地集団化による時間短縮等により省力化を図ることで、大規模耕作においても、作柄の斉一化を図り、高品質な葉たばこ生産に成功している。このような太江田氏の取組は、大規模化を目指す経営者にとって多いに参考になるモデルである。

今後は、引き続き、高品質な葉たばこの安定的生産と目標収量の確保を目指すとともに、耕畜連携で得られた良質堆肥を活用した土づくりを行い、減肥・減農薬によるコスト低減に取り組むこととしている。また、葉たばこ後作として、飼料米・稲の他、小麦の栽培も検討しており、将来的には、パンの一種であるベーグルの原料の栽培から製品の製造・販売までを行い、組織で一体化した生産販売をすることも視野に入れている。